

Gut Dysbiosis in Patients with Anorexia Nervosa

森田, 千尋

<https://doi.org/10.15017/1654762>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



(別紙様式2)

氏 名	森田 千尋			
論 文 名	Gut Dysbiosis in Patients with Anorexia Nervosa			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	林 哲也
	副 査	九州大学	教授	吉良 潤一
	副 査	九州大学	教授	神庭 重信

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

神経性食欲不振症 (Anorexia nervosa:AN) は、重篤な身体障害をきたす神経疾患であるが、その病態生理学的機序は、今なお不明である。近年、体重増加の制御への腸内細菌叢の関与を示す報告が多数なされており、AN患者において腸管内の細菌群の不均衡、いわゆる“dysbiosis”が生じている可能性が推測される。

本研究において、森田らは、ヤクルトが開発した16Sおよび23SリボソームRNAを標的とした定量的RT-PCR法に基づく全自動腸内細菌解析システム(Yakult Intestinal Flora SCAN ; YIF-SCAN®)を用いて、25名の女性AN患者(制限型 (ANR) 14名; むちゃ食い排出型 (ANBP) 21名)と年齢を一致させた健常な対照女性 (21名) の糞便の細菌叢を比較した。

AN患者では、総細菌数および*Clostridium coccoides* group、*C. leptum* subgroup、*Bacteroides fragilis* group を含む偏性嫌気性菌の細菌数が、同年齢の健常女性と比較し、有意に低値であった。また、AN群では、対照群と比較し、*Streptococcus*群の菌数も有意に少なかった。ANの病型別解析では、ANR及びANBP群の*B. fragilis* groupの細菌数およびANR群の*C. coccoides* groupの細菌数が対照群より有意に低値であった。また、AN群における*Lactobacillus plantarum* subgroup の検出率も、対照群に比べて有意に低かった。さらに森田らは、糞便中の各種有機酸の濃度を測定し、AN群の糞便中酢酸およびプロピオン酸濃度が、対照群より有意に低値であること、また病型別解析では、ANR群の酢酸濃度が、対照群より有意に低いことを見いだした。また、菌叢解析のデータを用いて主成分分析を行い、AN患者と健常女性との間に細菌構成の違いが存在することを示した。

以上の結果は、AN患者において腸内細菌叢の異常が生じていることを示しており、当該分野の研究に新たな知見をもたらす意義ある研究結果であると考えられる。

本論文について試験では、研究の目的、方法、実験結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から種々の質問を行ったが、いずれも概ね満足すべき回答を得た。なお、主論文の著者総数が11名であるが、試験での質疑応答を通して、申請者が本論文作成にあたって中心的な役割を果たしたことを確認した。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格とした。